

# 世界選手権よろず屋運営記

スキーオリエンテーリング世界選手権 2009 の舞台裏

福田良雄

世界選手権舞台裏でのよろず屋運営記。



福田良雄(右)  
担当部門だった地図交換所の前で  
竹と建材クラクタイトとスキーネットを  
使って組みあげた地図交換施設

## スキーOとの出会い

中学；機械体操、高校；柔道→応援団、大学；合気道→スキーと変遷した私の趣味のスポーツ。

信州・岩岳を振出しに越後、福島～山形～北海道を渡り歩き、卒業後は岡山に赴任をきっかけに中国山地のとある僻地のスキー場で週末居候を決め込んでいました。オフシーズンのトレーニングとして発見した「山野跋涉運動」なるスポーツを体験、当初12月から3月はスキー、4月から11月がOLだったので次第にOLが主になり、平成になって郷里の山口に引揚げ、弘中氏との交流が始まりスキーOなるものを体験させてもらいました。

郷土の代表選手不足であり即、周南市代表選手としてノルディックの板を履くようになって現在に至っています。そういえば最近アルペンの板は圧雪用と化しています。弘中氏とは新車を下ろしたばかりで山口から雪の山形までのドライブにも勧誘され！スキーOの大御所；武石氏との交流も発生、海外遠征にもずいぶん誘われましたが長い休みが取れず、実現していません！  
後で聞けば山口県は全国で唯一スキーOが県体育大会の正式種目として採用されているスキー先進団体だったと知りました。

## 運営協力と最初の躓き

前置きはこんなで、昨シーズンの終わりにスキーオリエンテーリング世界選手権の話が来た時、いまだに実現していなかった海外遠征に参加したとして、この費用をすぐに拠出、基金の一部に協力をさせてもらいました。

同様に、ボランティア登録の募集が出たときも大会開催期間は、私にとっても定年前の良い時期で、長期休暇が取れるつもりで登録をさせてもらいました。折返し村越専務理事から人事担当で協力を、武石競技責任者からフィニッシュパートを担当して欲しいと双方から依頼があり、いずれも私が本州西端という遠隔地からの協力であり、近くに適任者があればその方をお願いしてもらいたいと回答したのですが、是非にとの依頼から出来る範囲でのお手伝いをする事になっていました。

ところが、その後立ち上げた大会用メーリングリストに情報の欠落から登録されず、その後の情報が入らないまま時が過ぎ、雲仙・西日本大会が終わった頃、余りに反応が無い・調べてみたら登録が洩れていたと連絡が有りました。改めてのスタートです。直後、第2回の実行委員会が開催「役員であり、是非出て来るように」との要請もありましたが、直前の連絡で都合がつかず欠席せざるを得ませんでした。このトラブルは最後まで尾を引き役員か、ボランティアか？と身分上での解釈に最後まで対応の違いが残ったのが残念でした。

## 地図交換を担当

既に人事は流れており、競技面での協力になりますが、私にはフットはまだしもスキーOの大規模・公式大会の運営経験が全く在りません。幸いにして私の戴いたパートは計算センター、会場レイアウトの間に挟まった部署であり、そちらの両方のマニュアルが優先！それが決まらないと自分のパートマニュアルは決められません。

大会直前は、「フィニッシュ」と「地図交換」のパートは別々で羽鳥さんと私が分担することになっていましたが、彼の都合が直前までハッキリしなかったため、当面、私が兼務することとし、2つのパートは統合されました。

「地図交換」はリレーでお馴染みで

すが、ルスツではトレインの制約からロングでも採用されます。ここは2日間のみのパートですが設営などで事前準備が必要です。また会場内では近接していますが全く違った職務です。専任の役員は責任者のみ、後は全員、他部署と兼任のスタッフです。このためまずは他のパートの皆さんがどのようにされるかを知ることからはじめました。

## 試行大会の運営参加を詰め

運営の様子を知る為には、直前に開催された真室川大会が世界選手権を試行する大会として実施されており、運営状況を見たかったのですが、時間と交通費の関係でキャンセルせざるを得ませんでした。そのために必要な箇所での問題点の実行例を写真で送ってもらって理解することにしました。しかし、ハッキリ分かるものではなく、詳細は現地を確認するしかありません。



選手を待つ会場

## ルスツ前夜

その他いろいろ出戻りがあり結局出発までは、資材、及び人員の確保でアピールをするのと共に、他部署である高島さんから外注で戴いたコントロールユニット取付用のケーブル作成等を資材手配・調達・作成と1週間くらい掛けてお手伝いし、これでお茶を濁して、北海道出発直前にどうにか完成させ現地へ発送、追っかけるようにマニュアル草案を作成し、パートメンバーの酒井氏に送信し出発しました。会場到着後、村越さんから確定メンバーリストを戴いて、ここで詳細の色付けを作成することになります。

出発前は連日50~70通のメールがマシンガンのように入ってきます。連夜2時間くらいはこれへの対応で過ごしていました。

会計の船橋さんからは経費の不足を煩く連絡があり、当初は2月末から現地に入る積もりでしたが予定を繰下げ山口県協会の初春の定例行事である「秋吉台の山焼きボランティア」を済ませ参加することになりました。従来この行事は雨など天候により順延が当たり前となっていますが、しかし今年は1日でも延期になると間に合いません。願いが通じ今年は今全くと延期無し、予定の日程で推移しました。

移動の交通費も馬鹿になりません。山口からは直行便がなく羽田で乗換えですが、少しでも安くなるように広島からの直行便を選択、年末に手配して、当日に備えました。(もっとも交通費全額支給できないとの会計からの連絡でランクアップしてシートを変更していました)千歳からルスツへの連絡バスは当該便の客が2名しか居らず、ジャンボタクシーに変更されていました。前日迄の睡眠不足による疲れで、航空機~連絡バスの車中は爆酔状態、同行客はITの井上君でしたが、これに全く気がつかず一切話しもせず、ルスツの事務所で再会した次第でした。



世界選手権会場となった  
ルスツリゾートタワーホテル直下の雪原

## よろず屋開店

到着と共に事前送付の資材確認、翌日から使用する機材の製作をお手伝い。「雑役は引き受けるよ〜」萬屋の開店です。まずは、事前に送付しておいたユニット取付用の電線にユニットをつける作業です、翌朝早くから持参すると言うのですから急ぎます。この日も遅くまでの作業になりました。

## 地図交換所設設営

翌朝から、パートのレクチャーです。まず、地図交換の場所を開き、どのように設置すればよいか、空いていたス

ノーモービルを借り、資材を現地に運搬、1日掛かってセットしました。地図を受取る選手に問題を感じさせてはならない構造で無ければなりません。

設定のアイデアは競技責任者の武石さんによるものです。骨組みを竹で組み建築資材の伸縮箇所を使用する部材を使用。ローカル大会では前後に2枚重ねるそうですが、今回はミスが無いように単独で使用します。これに地図を挟んで、選手に抜いてもらいます。ある程度の風に対応する挟み力があることは間違って抜かれると戻し難い欠点があります。丁度バインダーの要領で1本で8枚(リレーでは本数に余裕があつて6枚にした)をセットします。本来はリレーの時だけの出番ですが、今大会ではトレインの制約上、ロングは1人リレーで3周します。地図交換所には2・3周目の地図をセットします。

設置した位置が悪いなどのクレームから二転三転して、最終日までに4回の設置変更を行いました。慣れて来ると簡単に位置替えが出来ました。最終日には、スタッフ4名で2時間で撤去・移転・再構築とスピードアップです。

最終日のリレーでは、風が強く、挟んだ地図が飛んで行きます。急遽裏側にネットを張ることにしました。幸いにして、全選手通過まで、風向きが地図をネットに押す方向で変わらず、事無きを得ました。このシステムは方式としては日本式アイデアとして好評でフィンランドから来たSEAからもお褒めの言葉を頂戴しました。

## 会場設営

翌日からは本格的に会場設営です。選手と観客を仕切るネットの設営、テントの設置等が主な作業です。モービルにテントやネットの部材を積み運搬。設営する雪面にドリルで穴を開け杭をセットしてゆきます。久しぶりに行う作業を昔は良くやっていたのを思い出して、楽しく作業をさせてもらいました。

この日は昼からモデルイベント、地図交換のモデルを1つ設営、本番で間違わないよう張り付けて参加選手に説明、実際に地図に似せた見本の紙を引き抜いてもらいました。このためか本番では地図の取り方では間違いはありませんでした。

## 開幕！ 世界選手権

既に選手の多くは数日前から現地入り、近くの「大滝」などでトレーニングを行っています。アジアの果ての雪

の感触を確かめているようです。また、この日は「北海道選手権大会」が開催されこの大会へも少なからずの参加者があつたようです。

モデルイベントが終わると「開会式」です。イベント担当の田中さんに協力し、日本式演出を実行。まず参加各国の選手を国別に集め、地元ルスツ小学校の生徒によるプラカードの先導で会場に入場させ国別に整列してもらいよう誘導しました。地元の和太鼓の歓迎演奏により開会式が始まりました。しかし、役員挨拶が始まり選手宣誓になると、もうだめ、座り込む者、寝転がる者、など続出！折角の日本式演出もここまで。日本選手団の堀江・酒井の両名での選手宣誓でいよいよ大会開催です。

## 競技を支えるメンバーたち

本大会を支える縁の下の競技関係スタッフは、スタートは青森の幸山さん、トレイン整備に山形の高橋さん、地図作成・会場レイアウト関係は高島さん、計算センターITにはチームの場、バックアップは羽鳥興業(日本エミット協会)が担当します。セレモニーにトレイルの田中さん、現地のコントロールフラッグの取付には武石さんのほかJOA 橋副会長までがその任に当たっているなど、その何れをとっても現在日本OL界のトップ、蒼々たるメンバー揃いで対応しています。

問題が発生して一体どうすれば良いか?といったこともいくつか有りましたが、たちどころに各人が対応案を考慮、速やかに処理するなど流石と感ずることが何度もありました。スタッフルームでは連日、問題が発生し、幾多の議論がありました。しかし、何時でも、前向きだったと思います。問題発生!じゃあどうしたら良いか?その場の皆が解決する方法を検討し、言わなくても行動に移していました。



役員部屋。地図、ホワイトボード、パソコン、スキー、布団。ホテルなのに会議室に泊まりこみ状態。



## 交換用の地図はいつできる？

地図交換に交換用の地図を貰わなければなりません、担当の高島さんから戴けるのが夜の10時と言われ、さらに遅くなり、遂に、翌朝、4時になり、更に6時になり最後は会場に出来次第持って行く・・・とまで言われました。

理由はSEAのチェックが、チームミーティングの後で検討され、地図の修正がなされる為です。プリンターは最新鋭の機種が3台、待機し、入力さえ間違いなければ高速印刷は可能ですが、如何せん、情報が入力できない。当然機械ですから言う事を聞かないこともありました。彼はそれから仮眠です。プリンターの横には布団が置いてありました。

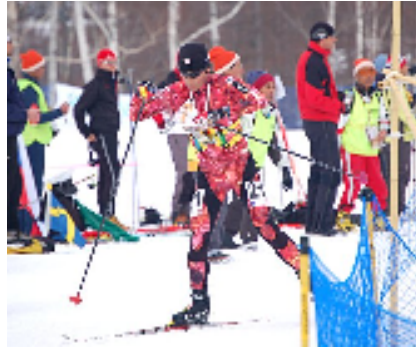
そんなこんなで、ようやく現品を受領してもチェックする段階で時間に追われ、チェックミスが発生してしまいました。間違っって印刷した地図を選手に渡してしまった事例が発生したのですが、該当する選手が成績の対象外であったと、親日派の方で、競技責任者の説明に納得して頂き、提訴にはなりませんでしたが、責任者として反省する一幕でした。

## 世界選手権本番

また、地図交換所では交換するためにそれまでの地図を選手はいたるところで投げ捨ててゆきます。風向きによっては観客席の方にも飛んで行きます。セットしてある選手が取るはずの地図が風に飛ばされて飛んでゆくこともあります。選手の使用済み地図が他人の目に触れる前に回収をしなければならぬのと、間違っった地図を取った瞬間の走り出す前に静止し、指摘をしなければならぬと両面に注意を払わなければならないといった行為に、ピーク時はてんでこ舞いです。

あわや選手と交錯といった場面も発生し、競技責任者に大声を出させてしまいました。すること全てが新しく、

経験の無い場面で緊張の連続です。



男子ロングで地図交換した堀江。  
地図交換の様子を役員が何人も見張る。

フィニッシュも、初日はラインが無かったとの指摘で、翌日、2本のレッドラインが入ると、3つのレーンが誕生します。

フィニッシュ後の選手のチェックをしようとするとうーカードの読み取り用コードが届きません。誘導に四苦八苦です。

最終日のリレーは次走者とのタッチが加わりますので、選手同士の交錯することの無いよう配慮が必要となります。この日、チーム的場は遂に秘密兵器を登場させます。無線での読取りを使用しました。フィニッシュする選手に2~3名の役員がハゲタカの如く群がりカードの読み取り・使用した地図を奪い取ります。



男子ロング優勝アンドレイ・ラモフ  
フィニッシュと同時に崩れ落ちる。  
役員はこうした選手から手袋にくくり付けられたE-cardからデータを読み取り、地図を回収する。連続して選手がフィニッシュ

するなかで、大変な作業。

## 分け合いたい素晴らしい成果

無事選手が全員ゴールし片付けが終わり、役員部屋に戻り、選手から回収した地図の枚数を確認し、封印のサインが終得ると、どっと疲れに襲われます。競技最終日、リレーの準備では、役員の一人が凍結した道路で転倒・骨折、担当者として責任を感じます。他にもナイフで手を切る等小さい事故が発生！少数精鋭の役員ですが、ここで疲れが溜まってきたのではないかと感じました。

全ての競技が終了した夜のバンケットは選手だけではなく、役員も安堵の宴会だったと思います。日本で、初のSWOCを無事開催できたことは、記録に残る事業だったと思います。



用具デポに運ぶ機材を集める役員  
各チームはコース途中で予備の器具を置くことができる。故障したスキーやポール、その他器具をここで交換する。  
ルスツではかなりの選手が板やポールを折ったようだ。

自分自身の成果は微々たるものですが、全体の成果は貴重です。その一翼に参画出来た事は大きな思い出として残りました。心配した経費的にも幸い帳尻が合ったと聞きます。

ルスツに集合された日本選手団、地の利を生かすことは際立って出ませんが、現在の日本の実力を余すことなく示されたと思います。

残念なのは直前に九州で散り、会場に立てなかった内山副競技委員長の無念さを想い、成果を示した受入れ側の役員の皆さんに感謝します。

(福田良雄)

